

再建の保育界

東京都保育所の復興

東京都民生局保護課

秋田美子

私達東京都の保育班は、殆んど總ての人から全く不可能だと評價されて居た幼児の集團疎開を執行して、長野、埼玉、群馬の各縣に直營五ヶ所、委託一ヶ所の疎開保育班を設置し、帝都に残された幼児二百數十名を送つた。可成りの悪條件の下で、關係者一同全く決死の覚悟でこれに當つたが、見知らぬ土地に女ばかりのこととてその勞苦は言語に絶するものがあつた。しかし良く全員之を克服して無事難事業を終了した。可愛い子供達を待ちに待つた保護者の膝下に返したのは昨年暮近くだつた。

此の頃廢墟と化した街の中には、遊ぶ術さへ忘れて了つて無暗にジープの後を追ひ、進駐軍に媚びる様な態度の子供の姿が非常に多くなつて來た。この悲しい状態はどんなにか私達の胸を痛めたことであらう。一日も早く保育園を再開して、この子供達に健全な遊びを與へてやりたいと云ふ希ひは期せずして起つて來たが、時期まだ早しとの上層部の意見もあ

つて、兎に角都内の子供の動態を調査し、施設に對する要望の一端を知る爲にもと計畫されたのが、焼跡の野外保育班の編成であつた。神田、杉並を皮切りに、疎開保育の疲れを癒す間もなく、京橋、王子、芝、牛込の各區に十一ヶ所の青空保育を試みた。社寺の境内、公園或は又焼跡の眞只中に而も時期は寒さに向ふ十月末から十二月の上旬にかけてであつて非常に不適當な折であつたにも拘らず、飢ゑかはく者が水を求める如くに集つて來た。多い處では日々の出席二〇〇名を下らず、延八〇〇〇名の子供が之に参加すると云ふ盛況だつた。此の状態は又保母達をいたく感激させ、寒風に身を曝し殆んど何等の保育用具もない中で、敢然自身の持つ能力、技術のみを唯一の武器として頑張つづけさせたのであつた。

「先生働いてゐる私達の爲に是非之を續けて下さい」「こんなに喜んでゐる子供の爲に何とかしてこの事業を止めないで下さい」と母親達は切實な願ひを訴へるのだつた。又幼い子供の口からさへ「早く御屋根のある保育所に行きたいなあ」と洩らされるのを聞いては、私達もヂツとしては居られなかつた。

此の頃漸く機も熟しかけて居たので、この野外保育の結果を好資料として、色々の準備を経た後、都立保育園として最初の産聲を挙げたのは今年三月十二日である。現在の勝関係保育園がそれで、開園數日にして百五十名を入園させねばならぬ有様。所屬の園長以下暫くは夜の目も眠らず、準備に忙殺され乍ら子供達の期待に答へたのである。

○ 無我夢中に働らいた野外保育終了後、新たに管設のものを作る準備の期間中、漸く息をぬいた途端、自分達の持つ保育理念や保育方法の検討の必要を感じ出した。頭の切り替へをし、新しい觀點に立ち直らねば、安心して子供の前に立つことは出来ないと、焦り氣味になつて來てゐた。そこで都では早速之に應じて可成り大掛りな再教育講習を催し、倉橋先生以下十數名の講師を迎へて約一ヶ月に亘る期間を之に費した。民主主義とは何か、國際的な立場から今は如何に保育すべきか等、その他廣範圍にわたる勉強を受けて大いに得る處があつた。

勝鬨をスタートに、次々に都内區部に十三ヶ所、三多摩に十二ヶ所(之は戦時中から繼續されたもの)の保育園を設置し、新たな角度から保育なるものを建設して行かう、即ち在來のものの色々批判し、幼稚園と託兒所の長所のみを採り上げ、その上に新しい文化國家の建設と世界平和に貢獻すべき使命を擔ふ幼児に人間としての基礎をしつかり築かねばならないのだと、大いに意氣込んだのだつた。併し現實の姿として、私達は自分の力の足らなさ、技術の未熟さを一々思ひ知らされたのである。殊に年齢層の若い保母達は、戦時中に總ての教育を受けた悲しさに、談話にしても歌にしても使へないものが多く、さりとてどうして好いか解らぬと云ふ場合も少くなかつた。その當時は未だ國民學校以上の教育指針や方向も確定されず、何處に根據を置いてよいのやら、折角の講

習を受けたが一つ／＼實際の場面に突き當るとまだ／＼解らぬことが多くて困つた。そこで私達は在來の人から與へられるのを待つのみ態度を捨て、自分達の手で自主的に勉強し研究し創つて行く會を作らうではないかと云ふ事になり、係の方も色々助力された結果、東京都保育研究會なるものを組織したのは今年の五月半ばであつた。

會員百二十三名餘りしかないが、數種の研究部會を編成し、部會の活動を中心に日常の保育を部會研究の綜合的な結合に依つて動かして行かうとする仕組みで、日々の保育の問題は即部會の研究課題になるわけで、研究と平常保育とが不即不離の關係に成り立つて居る。

開園以來今日迄色々困難な事情も多く、時には私達の熱情を冷して了ふ様な事實によつかることも幾度かあつたが、いつもこの同志的な繋がりによつて支へられ、危機を切りぬけることが出来たのである。

體にも心にも殆んど一寸のすきもない様な氣持ちで、實際皆可なり疲勞してゐるに違ひないが、建設の喜びと仕事に對する誇りとがそれをカバーして、明日への努力をさせてくれるのだつた。併しこの研究會もまだ總ては將來にかゝるのであつて、その研究活動の結果が云々されるのは今後のことであるが、どうか會員一人々々の責任ある勉強によつて、今後の保育事業の上に何等かの足跡を残す様なものになつてくれることを切に願ふ次第である。

かうして、係員も保育園職員も全く心一つにして働ら

て來た結果はその事業の上に反映して、開設六ヶ月にして在籍園児數二三〇〇名を數へるに至り、彼方でも此方でも受付は斷り切れぬ程となつた。入園を許された母親の感謝の氣持ちは色々の形をとつて園への協力となつて表はれて來てゐる。それにも増して嬉しいことは、子供達が日曜や祭日をつまらないと云ひ毎日々々の登園を心から楽しみ喜んでくれることである。

○
こゝ迄來て考へられることは、結局どの仕事でもさうであらうが、特に教育は人なりと云はれる如く、保育は結局保母の質如何によると云ふ月並な結論である。戦時中から保母の質が低下し私達を憂慮させて居た。現在東京保育園で保母を採用する場合は、筆記口答技術の簡単な試験をして居るが、教育の不徹底と世相の反映からして仲々容易に人を得られぬ實狀にある。そこで都が直營の保母養成所を持ち、優秀な保母を育て、配屬出來る様にならなければ、ほんたうの事は出來ないと思ふので、係ではその實現方につき現在色々案を練つて居る。

前述の如く保育園の設置された地區でさへ申込みを消化し切れず困つてゐるのに、設置されない地區では土地の要望もあり、早く開園をと區役所初め色々の方面からその設置方を申し出て來られるので、二十ヶ所ばかりの増設を計畫し、財務關係に申請したが、都の財政難の爲に何度か暗礁に乗り上げ、早急には實現困難と云ふ破目に立ち至つて了つた。そこ

で之れはもつと國家的な援助と法による裏づけがなければ駄目だと言ふことが解つた。政府が眞に日本の再建を願ふのなら、もつと積極的に此の幼児の保護教育事業に本腰を入れてくれるべきだと思ふ。現在の處、世人一般が自分に子供があり乍ら「幼児のことなど構つて居られない」と云ふ様に、この事業には無關心であり無理解の様に考へられる。それにつけても最近ソ聯大使館文化部で觀せてくれた幼児教育の狀況など大いに參考にして欲しい。そこで私達は此の仕事の重要性を世に訴へ認識して貰ふ一つの方法として、藝能大會を計畫した。藝は未熟で拙なくはあらうが私共の意圖する處をこんな形式で發表するのも面白からうと考へる。この稿が記事になる頃には催しは終り、その成果を世に問はれて居ることだらう。苦しいが楽しい子供の仕事——私達は此の道を往くことに限りない誇りと責任を感じてゐる。

(昭和二一、一〇、二〇)

公立幼稚園、私立幼稚園、保育園の一つ／＼復興されてゆくことは、わが國保育界の、喜びであり、祈りであると共に、新日本建設のために、幼児教育の必須必要の社會的認識を、事實の上で證明し、實際に物語つてゐるものである。それにしても、その事に當る人々の勞苦はお察しするに餘りあり、深き感謝を禁じ得ない。と同時に、われらを激勵すること、何よりも強い。